



西國三十三所名所圖會一



攝都 曉鐘成編輯  
 全 招川半山畫圖  
 全 浦川公流画圖

西國卅三所名所圖會 初編 全卷

嘉永 新鑄

書賈合梓



和蘭文庫



西國三十三所靈場の尊ぶる

さしあむるに古き代より人のたむ

免とれよし有工かたよまゝ

華山法皇の御修行とて行幸し

たふかたのく西に始り終り此

はらひも定むらひなむらさきればま  
あさくすく瑞く九名を山川に  
風来を毛むらよりあき揚ふり神の社  
いふ一人の詠歌抱のくもし 翠く  
筆くつらむき浪華の曉鐘成ぬり

はらひも定むらひなむらさきればま  
あさくすく瑞く九名を山川に  
風来を毛むらよりあき揚ふり神の社  
いふ一人の詠歌抱のくもし 翠く  
筆くつらむき浪華の曉鐘成ぬり

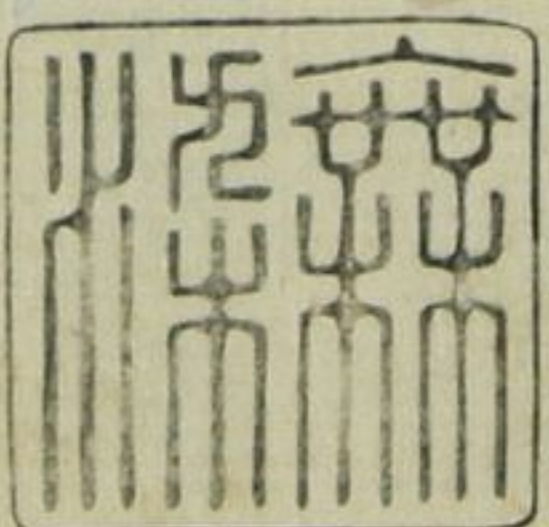
河に流されと吾住ふ花山元慶を  
むつ 法皇此夜お柱母ん飾り  
おろしあひなまのまき田入すもか  
あゝおまの書あしはれきくおか  
其大梁とそいひある抑大張千丸

御誓ふる枯る樹も花咲き  
笑は今様木の志りはと数れ巻も  
あゝいまの御代の書あゝあひ  
みのつれ芽おも書あゝの時を  
とやあゝ海つゝ

嘉永元年戊申二月

花山法皇御落飾道場花頂山元慶寺

苜蓿無染



西ノ序三

西國圖會自叙



く種竹の母より西國順禮と號す二十餘三つと  
し觀世音おさらけ靈場を行めりてとて  
其往古いとも人も阿やあしとて

花山法皇此大御所なりといふや阿やあしとて  
しよる靈廟よりなる形跡ありとて大御所を  
慕なりとて詣りて人も稀くとも有しとも永亨  
とて二年此を起しよるの下に乱れしとて  
國中も是らくぬらも戦ひてよとて形跡

可き邂逅ありてんと云ふ人々も終つて本意  
えんを思ひて口をくも思ひ絶てて疾く成  
と氣をくくくたる紙鳥うり

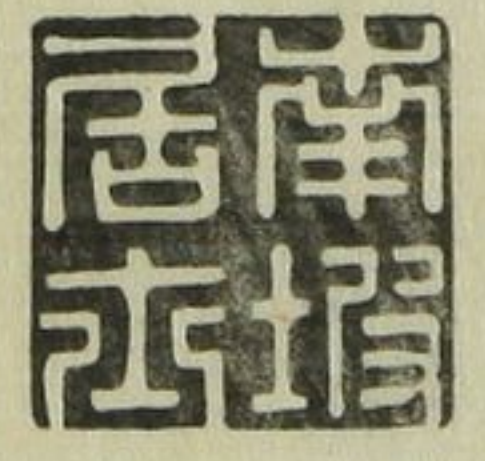
東照 一より大御神の大代志りくくくく  
世の中を治りし治りくくくく民を治  
申る形多うす年内日刺都人と更をもつて  
天離る鄙人すく玉評の道は事をもつて  
何れもすくす草枕旅行のあつて成り  
可経婆社の修り書けり人形くくくく

玉くくく行の形ちす不便くすく史の世も多う  
今や平く著候わ美くく彼三千餘三の  
いふ霊場を多る形くす其邊の神社仏閣  
或る名細く所のみくく隅落候申る  
志くくく何れと繪圖を何れ 且其申  
よりを歩葉系はくく書記くくく経  
飛くくく道の程はくく受りくく  
志くくくくくもくく并く所傳のくく  
条くくくか あり

大御代の恩頼をわが飛まつ〜の氏引導すのちを  
 何れも書肆に逢ふ事し形舟にのりてゆく  
 ちくや〜抄き筆を採らるる年

嘉永と〜め年春

鶏鳴舎曉鐘成誌



凡例

- 一 此書西國三十三所名勝順拜圖會乃道標と本々并其街道は左に於て便宜地の神社佛閣名勝舊蹟と著しり也されば全部都合十有余ヶ國に及ぶ
- 一 ども更一國一覽此圖會に於て就中紀伊國封域廣大〜名區佳境最も繁多も容易此に如る事難故に〜路傍の古趾と搔つて記し而已矣
- 一 紀伊國名所圖會と聞て其勝地を知る
- 一 世に西國順禮と稱する事往昔東國の人露場を巡る道の便宜に伊勢西宮に詣で余〜熊野に至る漸一國々を経美濃路に終り故郷の吾妻と敏順路より〜斯の号は始〜を依て古例〜を伊勢發端と爲
- 一 河内大和に至ると〜響不出て名所圖會に多〜同ト然も其漏〜を採り遺る〜拾ひ奇談珍説〜加えて事〜新〜
- 一 寺社の莊觀興廢も今時乃景勝と〜且先版〜圖〜誤る所改正次則河内大黒寺光籠寺土師八島墳の如れあれ也

一 其遺跡の絶々も教訓とあふむる奉々如大和の孝婦伊麻の如き也  
 又世に出る事年歴僅あつても古物の類寫し出は文氏墓誌銅器あは是なり  
 卷中間々忘説の如しと文ゆ事本意よりいへども唯其函圖の異容あつて  
 出しく児童の目と慰んが為あり

攝都 曉 鐘成謹誌

西國三十三所名所圖會卷之壹目錄

花山法皇御幸順禮之權輿 自伊勢兩宮熊野三山及  
歷和泉河内美紀

伊勢國

國號之譯 兩宮恭誥道條

山田郷 恭誥道條 豐川 自京都本街道自東武東街道自浪華田凡越  
阿保山越伊賀越凡行程里數 宮中神社諸殿

勅使上使本道 度會宮正殿 外宮 豐宮崎 宮崎文庫 屋上檜

高倉山 天岩戸 高天原 高神社 客神社 伊加利社

度會大國玉比賣神社 御田 井谷池

梶が森 錦河内 田上大水社 井足山

山末社 麻留山 世義寺 宮崎氏社

鼓ヶ岳 蓮臺寺 寶金剛院

瀧浪山 岡本里 繼稿 小田橋 河辺里妙見町



岡寄宮 尾山 尾部社 隱山 隱の池  
 尾上 常明寺 結城入道墓 北畠顯家御碑  
 清雲院 經ヶ峯 曼陀羅石 古鐘  
 貝吹山 中地蔵 間の山 於杉於玉  
 月讀伊弉諾兩宮舊地 伊弉諾伊弉册宮  
 月讀森 伊弉諾伊弉册宮  
 大土御祖社 國津御祖社  
 伊勢上人 慶光院  
 真淨院 岡田 那自賣社  
 大水社 鼓ヶ岳 不動堂  
 橋姫社 宇治橋 長明寺  
 内宮正殿 宮中神社諸殿 五十鈴川  
 狭田國生神社 速川比古神社 二見の浦  
 湯田神社

田上大水神社 捧原神社 坂手國生神社 廣泰寺  
 田宮寺 蚊野神社 蚊野の松原 津布良神社  
 栴羅神社 大辻觀音庵 國東寺 相鹿上神社  
 相鹿木太御神社 相鹿羊山神社 千福寺 三瀬川  
 多岐原神社 三瀬峠 瀧原宮 荷坂嶺  
 紀伊國  
 國魂之譯 熊野の魂の譯 斤上池 二郷の渡  
 長嶋浦 錦浦 一石嶺 海野浦  
 鋸坂 道瀬浦 二浦嶺 始神坂  
 馬瀬川 木戸口川 中里川 便山川  
 間越坂 岩船地藏堂 天狗石 天狗窟 光林寺  
 松本古趾 中川 矢根川 八鬼山嶺 日輪寺 重五郎茶屋  
 三木浦 曾根浦 浦母嶺 楯ヶ崎

二木島浦 最明寺 英虞子明神社 牟婁子明神社  
 相神坂 德司明神社 大吹嶺 清水寺  
 清茶寺 木本嶺 清水寺 觀音遙拜堂  
 鬼ヶ城 魔見ヶ嶋 木本湊 井土川  
 七里ヶ濱 阿呼石 大馬権現社 花之窟  
 王子窟 有馬浦 玄井三蔵祠 聖德太子祠  
 産田神社 安樂寺 東安寺 志原川  
 湊川 水傳磯 梶ヶ鼻王子 耳切川  
 熊野川 熊野新宮 御船島 牛鼻神社  
 鐘樓 新山御核所 新宮湊 矢倉明神社  
 如法堂 飛鳥神社 無量壽寺 燈明寺  
 東仙寺 飛鳥神社 蘇徐福墳 行家館古趾

濱王子社 玉之井橋 神倉山 大黒堂 地蔵堂  
 妙心寺 三熊野 上野明神社 三熊野濱  
 熊野村比丘 御手洗坂 佐野松原 三輪ヶ崎  
 佐野岡 佐野山 佐野王子祠 秋津浦  
 鈴島 高根島 目覚山 赤嶋 二位禪尼塔  
 高根島 高根松 赤嶋 狛島 稻荷祠  
 小園坂 大園坂 鳴耶濱 白菊濱  
 丹敷浦 維盛郷入水古跡 濱宮  
 補陀浴寺

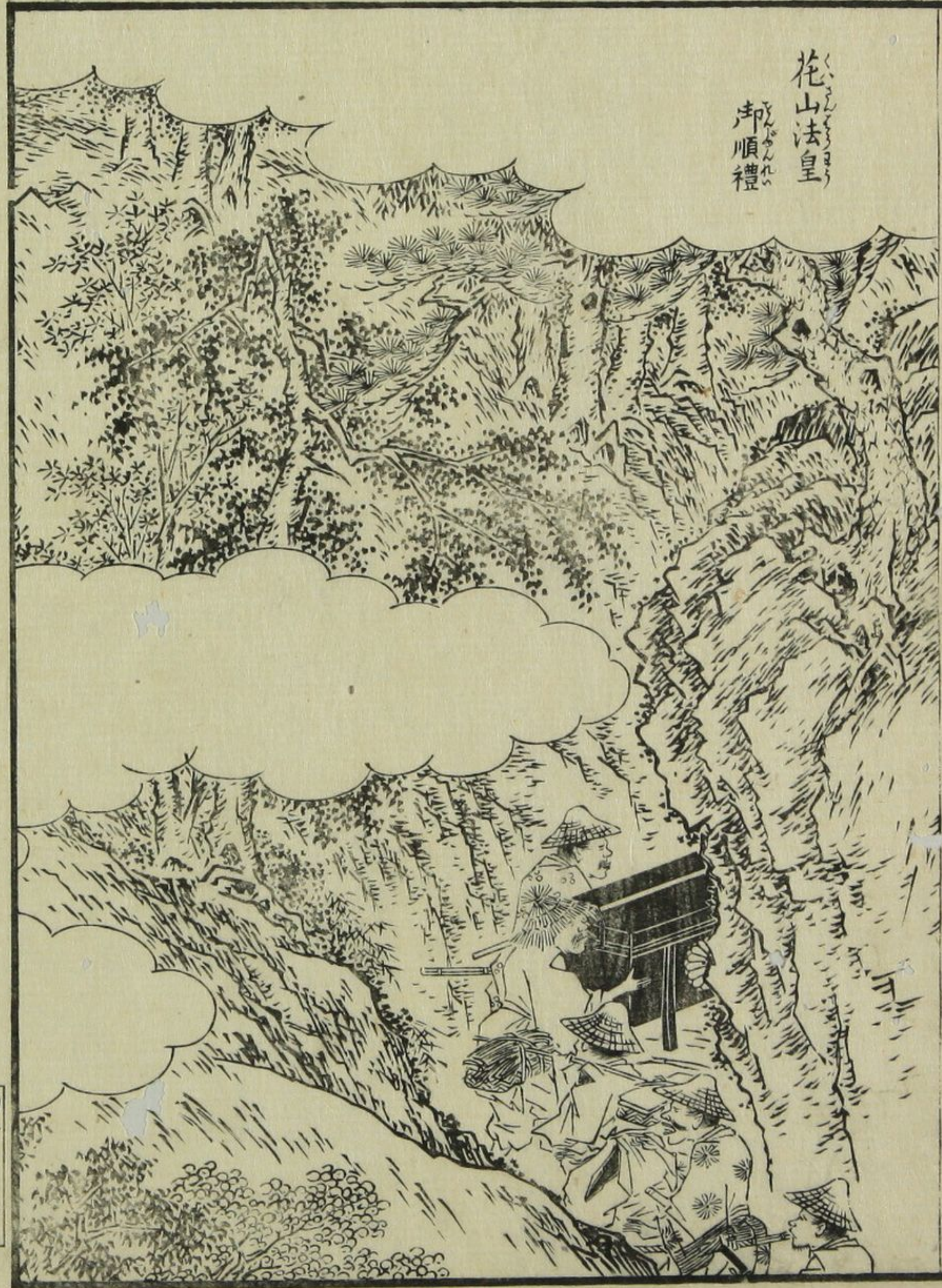
大悲何所導濟度彼西方千手經營壯三十三靈場  
華山幸熊山跋涉創法皇普陀落化城輪奐幾紺堂  
奇秀山不驚汪洋海無量名區入國雅勝迹又詩章  
香火善男女描馬禮巡裝不異五岳真當占四時芳  
燦然萬流峙一覽在縹緗因緣引騷客何啻喜爺孃  
尚平願宜滿康樂意飛揚誰將煙霞癖裁此巧津梁  
嘉永二年己酉秋九月

南浦 山口之謙題





平山



花山法皇  
却順禮

西  
一  
八  
七

觀音靈地順拜之權輿

西國二十之所靈場と言大和國長谷寺の開山徳道上人熾魔王宮に到りて秉て始めて  
巡る所として吾朝に於て救世觀音の浄土と稱する灵地ありし靈場記に見たり 人王四十五代  
聖武天皇神  
龜年 又徳道上人百萬部の法華經と書寫し其供養の爲に一萬人の僧を集めて大導師  
中云 又徳道上人百萬部の法華經と書寫し其供養の爲に一萬人の僧を集めて大導師  
師に請ひ申ひて人可しと思ひ漂ひゆり閻魔王徳道上人と招きて書寫の開山性空上人を  
以て能化し供養せよといひ言ふより徳道限りなく悦びつて頃し性空上人を請ひ  
供養執行しけり。尔後重く徳道上人圖王に謁するの時此世に箇所の靈場を教へり  
靈驗真鈔に見えたり 今皇二十二代冷泉帝  
安和二年の頃なり  
按し長谷寺縁起に徳道上人が十八代齊明天皇即位二年に生きたる神龜二年に大僧  
都に任じたまふ元亨釈書に性空上人が十一代一條帝寛弘四年二月十二日に寂し年八十と  
りり然るに六代醍醐天皇延長六年の生れありて齊明天皇二年 徳道天皇延長  
六年 性空上人の生れありて又和漢才圖會及び釈書に徳道上人法道仙人の異  
名ありと云 法道仙人天竺の人と持明天皇二年 徳道天皇延長  
六年に生れありて仙と云 仙と云はよみて仙人と云ふ 前より長谷寺の縁起 徳道天皇延長  
六年に生れありて仙と云ふ 仙と云はよみて仙人と云ふ 前より長谷寺の縁起 徳道天皇延長

閻魔王の誓紙と得て此土に歸り中山寺に收むるに又性空上人閻王の誓紙とて石印を賜  
ふると持し皈つる石函に入て中山寺に納むるに順禮縁起中山寺合縁起ホありし緒説  
區々して事實詳あり故に閻魔王の説とるに畧し  
冥應集云巡禮の權輿徳道上人也昔中山寺と第一と其後中絶せりと花山法皇  
と河内の佛眼上人と書寫山の性空上人と辨光僧正良重祐懐と共絶たるを継ぎ巡  
禮の其時に那智と第一番とゆふこれに異説と差おれ凡徳道と順禮の草  
創に佛眼性空を信し花山法皇個性色の人故に法皇と中興関山と稱する乎抄  
云るに二十所の灵場古今異同なり然るに其事とるに言ふに無益ありて以てこれを畧し  
觀音靈場記曰傳聞往昔 華山上皇心と佛衆小歸して躬夕山靈區と巡回し殊に  
觀音の靈場と求むると凡二十所に於て此二所と得るに蓋世に身に擬されは是乃  
西國順禮の權輿也兩より以來貴人とか賤たり其睿蹤と慕蘭と巡礼と行する  
者連綿として断たず 柳花山帝と申奉る人皇六十二代冷泉帝第一の皇子として  
諱師貞母贈皇太后藤原懷子 攝政大臣 師尹女 也六十四代圓融院の東宮に立せぬい永觀二

本年八月讓と受て六十五代の帝位に即せり其御関白頼心の娘且幼子親王の女藤原朝光の媛と納て女御の時よりおれば此二女相共帝顧より事あり時大納言為光の娘恒子が容貌麗羨ありと聞せゆ是を納て女御と然る帝寵遇甚と渥く乃ち弘徽殿に置りちゆい之小幸せし事二十人の杉黛顔色あはれ如故呼で弘徽殿の麗女御と曰るも因て前の二女の女御達是と妬ゆゆら故や幾程もあつ恒子懐妊して八月及び寛和元年七月病かかりて薨ゆゆ是より帝御嘆きの余り朝政も聞せぬ物狂りありゆい悲しく況して世に捨る御志あり又御又冷泉帝も是に似せゆゆい御病よりして猶も愈せぬゆい今天皇も又亦ありて群臣あはくあれと凍むゆゆゆ只發心の御志を打露きて御座より栗田関白道兼其頃ゆゆ殿上人を蔵人弁と申りゆゆ扇大集経の妻子珍室及王位臨命終時不隨者ゆゆ文と書て見せ奉りて御出家とすゆ我身も御供して剃髪ゆゆゆゆと賺し申こまゆゆはま御道世の御志弥増ゆゆ終に寛和二年六月廿二日の夜潜り負觀殿の高妻戸より忍び出せゆゆの御供ハ沙門嚴久と蔵人藤原道兼と只二個あり又中納言藤原

義懐と左中弁藤原惟成此二個御跡と慕て隨逐ゆゆ即ち花山の元慶寺を御飾と落ゆゆい御名と入覚と号け花山法皇と是あり御年十九人曾て是と知ゆゆ臣其夜天文博士安部晴明何心もあつ庭に出て仰を見て發驚ゆゆ曰天象異と呈ゆゆ天子位と避るの象ありと斯て晴明急参内と奏するに帝在るに百官駭駭して尋れども見させゆゆ明日に至つて帝の在る所と索ゆゆ得るに則ち花山寺と既僧とありゆゆたつて惟有て駭ゆゆるハかり就中義懐と惟成と常近臣ありゆゆ同く剃髪ゆゆ従ひ奉られゆ斯て法皇戒檢嚴ゆゆ花月と號ゆゆ道造の友と求め給ゆゆたつて浄楽の友ゆゆの慕い招きゆゆ入り河内国石河郡聖德太子の廟所に勅使成立させゆゆ何方ともあつ聖一個忽然と来りて御りて勅使されと見るに眼より金色の光と放ちゆゆ人よりゆゆまは是と凡人ありゆゆを伴ひ都ふとて法皇に斯と奏し奉るに法皇もあれと見ゆゆ眼より金色の光りゆゆれば則ち号けて佛眼上人と宣旨とあり下されゆゆ戒師の御房と尊ゆゆゆ一人余後法皇は普く觀音の靈場と拜せんゆゆ成望させゆゆ佛眼上人先達とゆゆ日本におて世觀音の浄土とゆゆ靈地

三十二ヶ所と導と奉らるる也

中山寺合縁起ハ花山法皇長合寺に宿て其夢に於て

此上人のすむり依て 靈驗真鈔曰永延二年戊子二月十五日法皇華洛と出向す

佛眼上人と先達とて三十二所の観音の順礼と修行の六月朔日にて七十五

日と経て還向し給ふ 靈場記曰花山法皇其夢に感得て長徳元年二月十七日始に熊野

至るの六月朔日に谷汲来りて其間七十五日也是と諸人巡礼始りて

法皇其後又重て那智山へ入らせの二年が同練行のひふして華洛と還らせ

のひても花山寺に在りて自ら密乗と開さゆひれば灌頂と受る者其數尚も

多かり寛弘五年二月八日崩せり聖壽四十一とぞ御座る 叙書 されば弘徽殿の

女御とても救世観音の变化して假人間とあらわれの煩悩即菩提心の利益

とあり花山帝と佛乘に皈せり又佛眼上人と現れて靈場とせし閑せり人皆

是衆生済度の方便ありされ斯る靈場と一回とも歩くと運ぶ輩も現世とて惡事

災難と免き子孫繁昌し厄病厄難とつれ一切業障と除き死とて惡道(墮

する事と逃るると疑ひ有るべしとぞ

一書云三十二所の推輿ハ悉くも花山法皇の巡り始りて後都内より百二代

後花園帝の御宇永亨二年の頃より始ると按ふ法皇の御夢に於てのいより又中

絶して永亨の頃まで盛んに巡らざりありて原来其名も西國といはれざるあり

靈場記云西國と号けたる鎌倉時代より言始り 或云永亨の後諸国大に争戰ありて

盛んに巡らざりありて 岡田次筆云三十二所と巡拜するは後今西國と呼ぶ京東國の人の詞也

はので東海道とのびり伊勢両宮に詣り八鬼山とて熊野に至るより國々を經り近

江の長命寺觀音寺美濃の谷汲と終ると中仙道と經り東國の故郷に皈るハ次分順

路ありされ其二番紀二井寺の歌と故郷とぞとあり紀二井寺花の都も近く成

らんといふ關東の人ふあひて中原の地の人の為は八聞をばとぞ

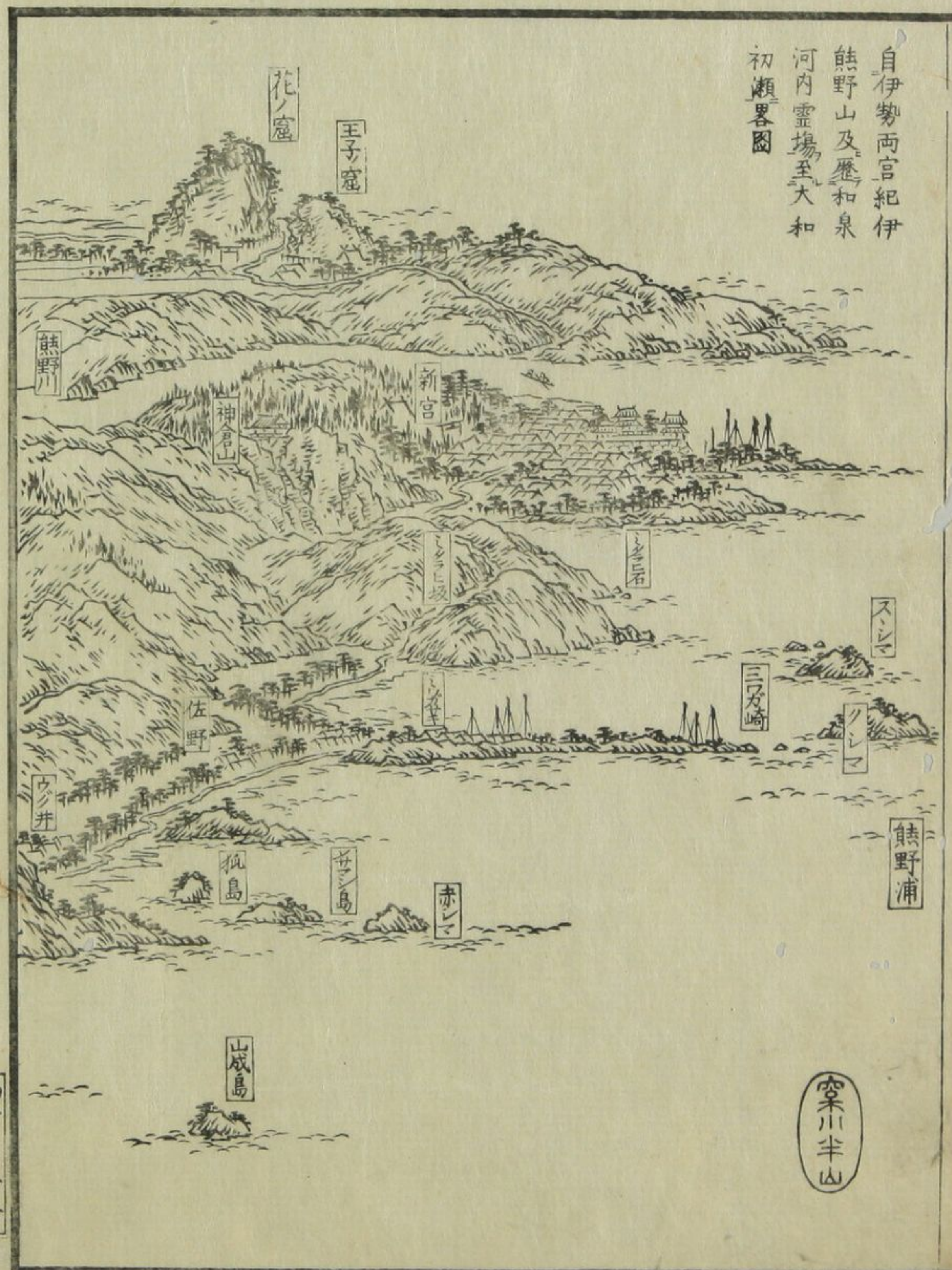
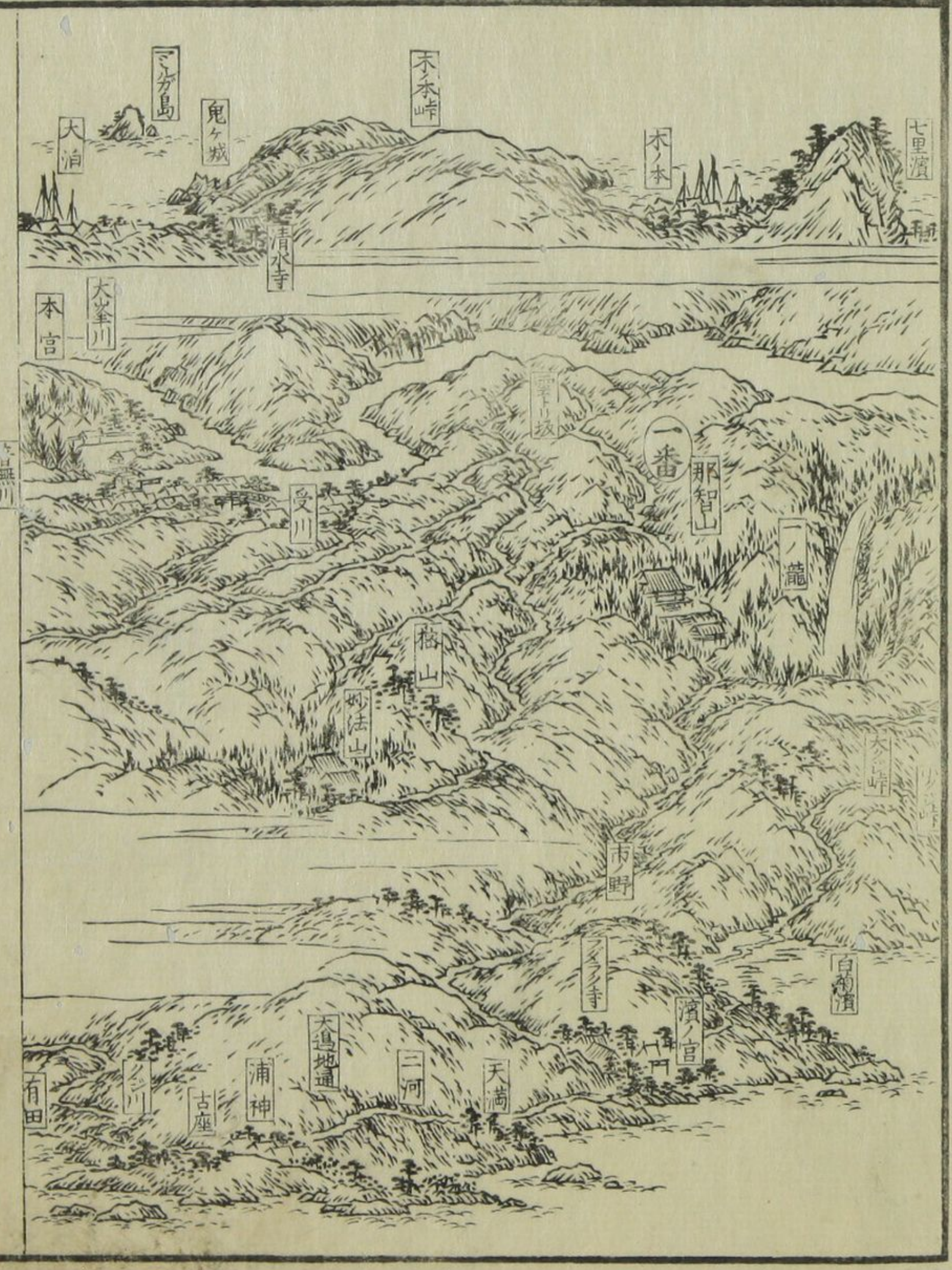
一説に關東とて老若と拍と既と巡礼する者と上座小列の未と順礼せざる者

と下座に居むと言ふ故に都鄙遠近と巡礼せりと云

抑伊勢熊野八天地の神の鎮まらぬ宮居られ順礼の輩も詣りて事所理あり

され此卷も東國への古例に准ひ伊勢両宮と始り八鬼山と越り熊野に至ると

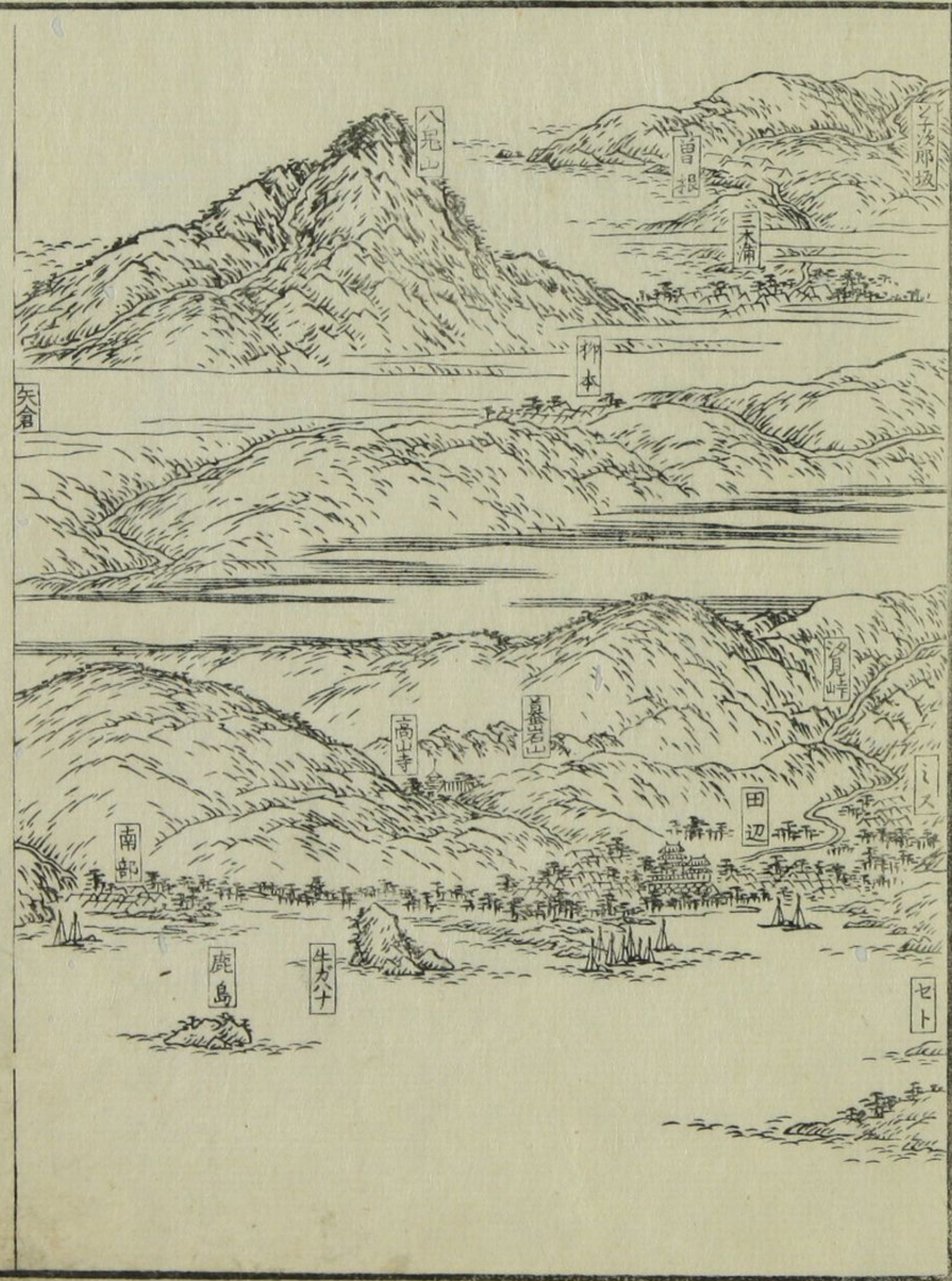
順路といふ者客其縁故と察しべし



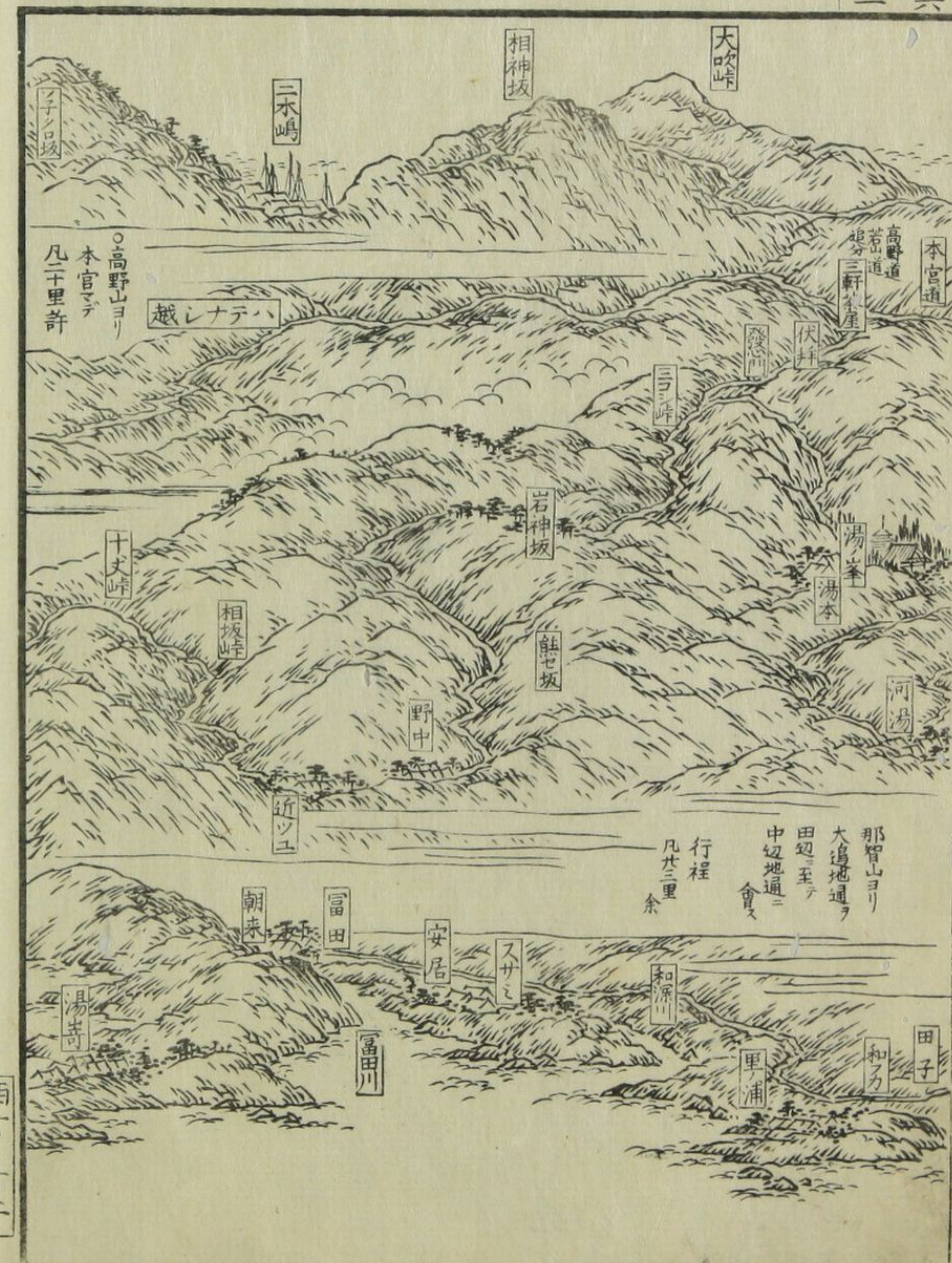
自伊勢西宮紀伊  
熊野山及歷和泉  
河内靈場至大和  
初瀬畧圖

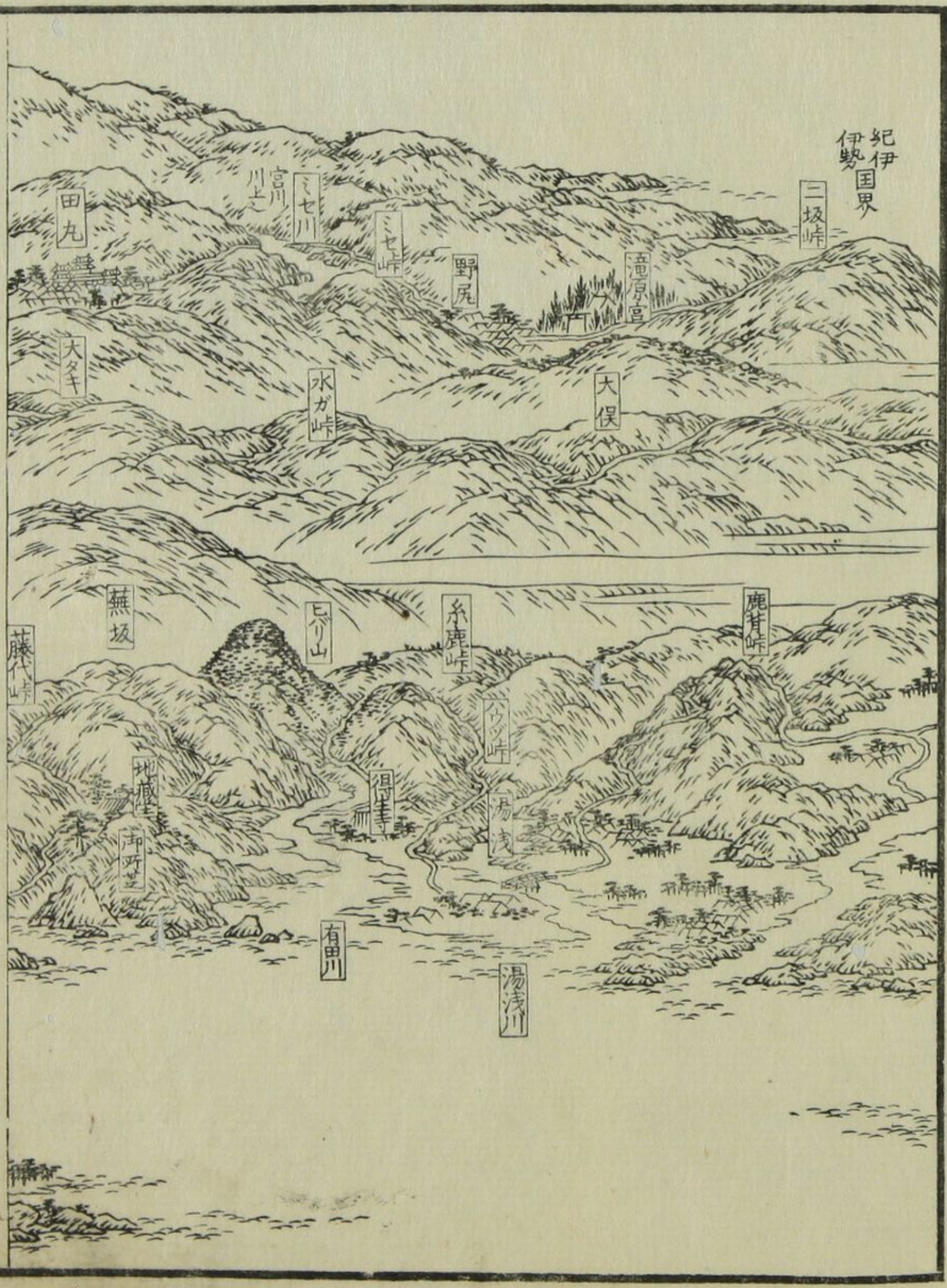
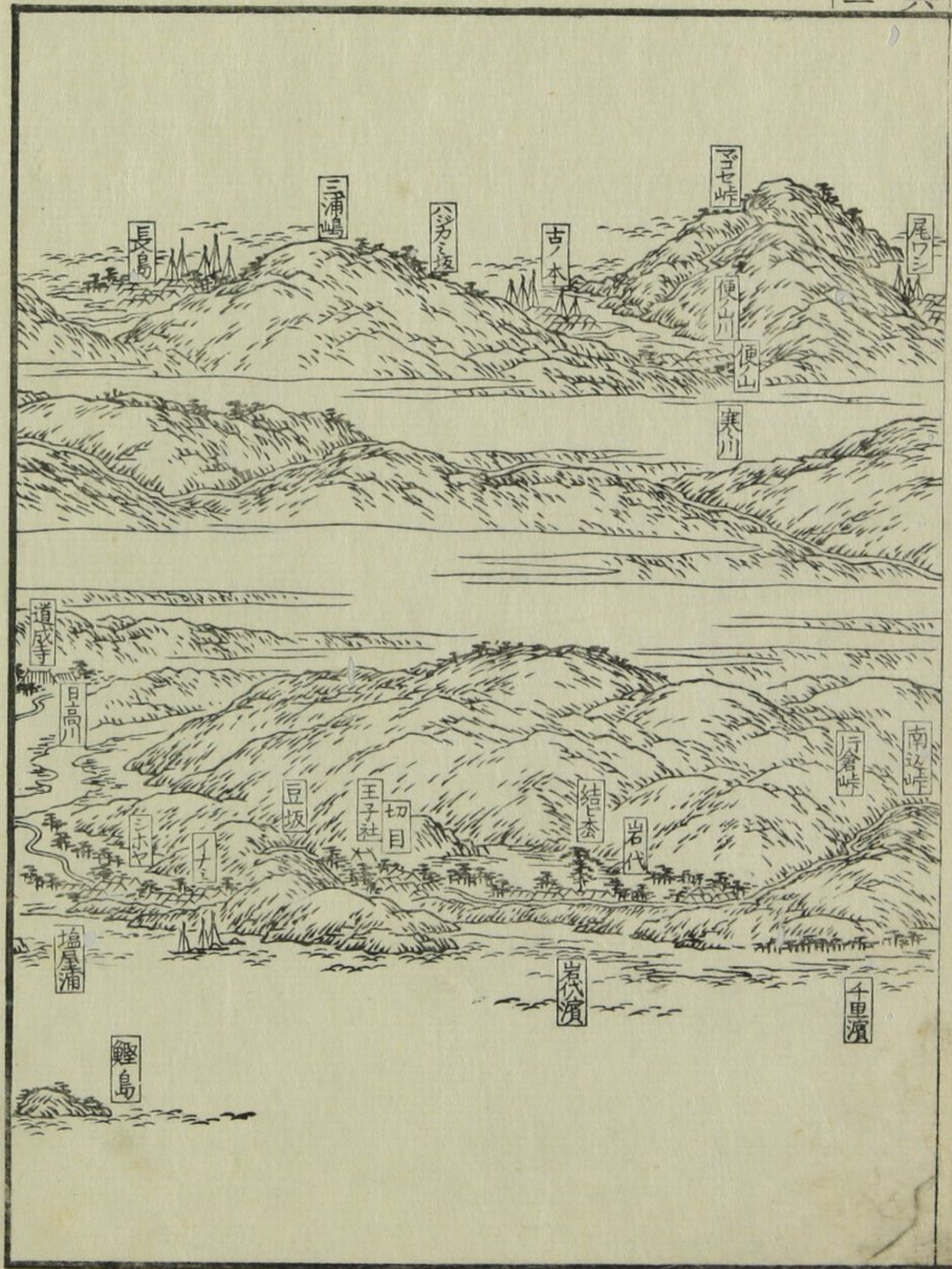
空川半山

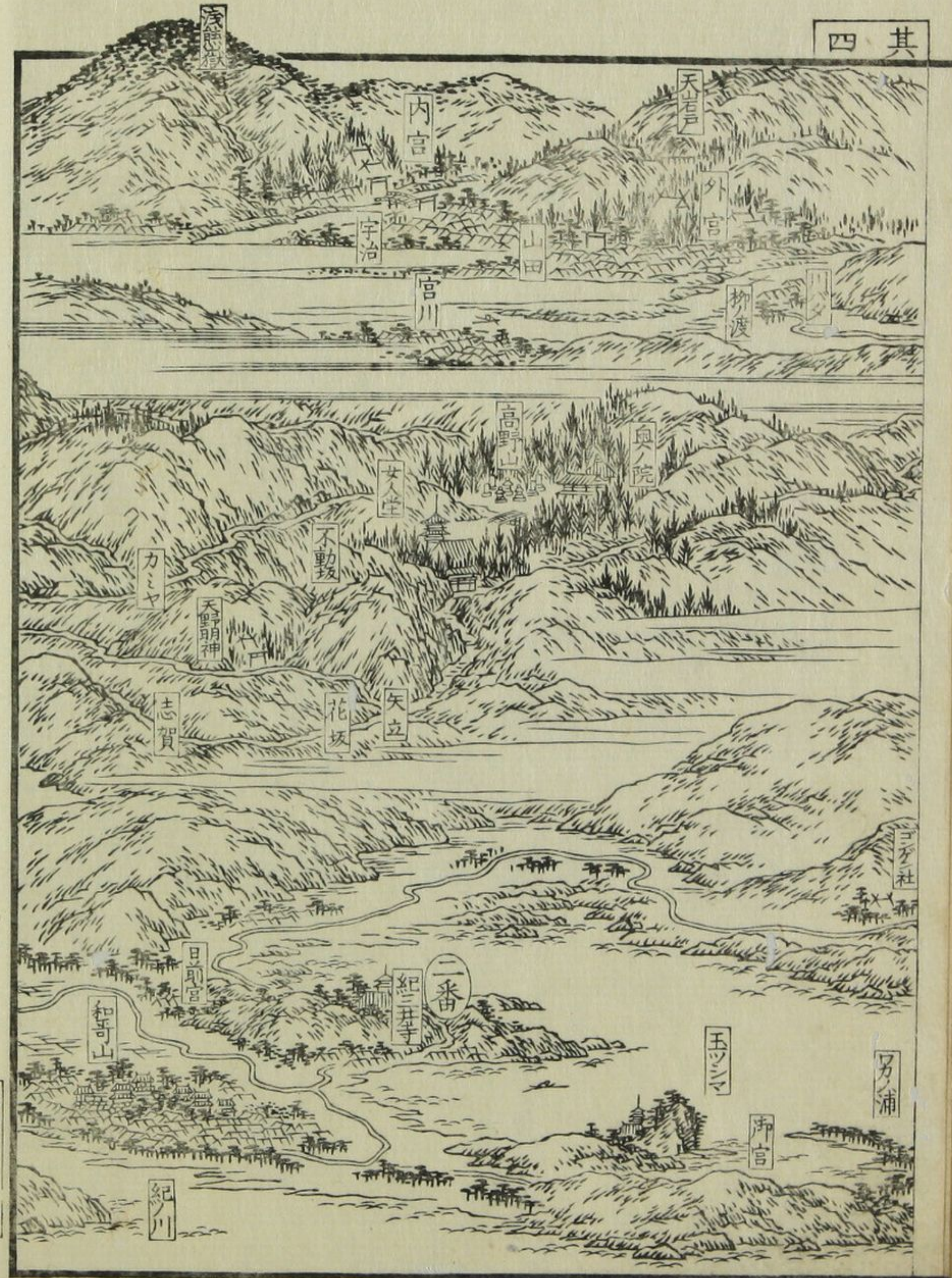
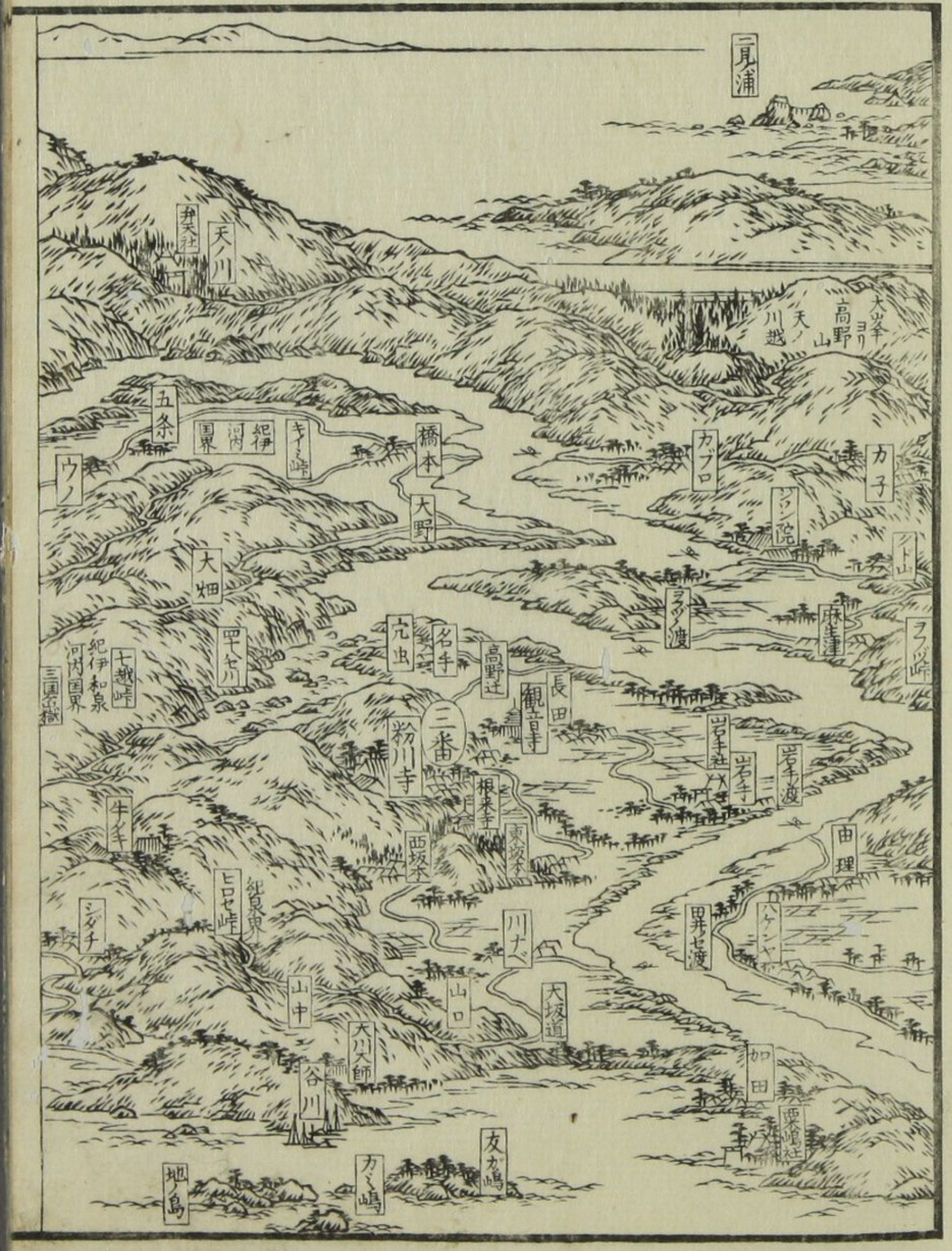




其二









其五

西一八十五

伊勢

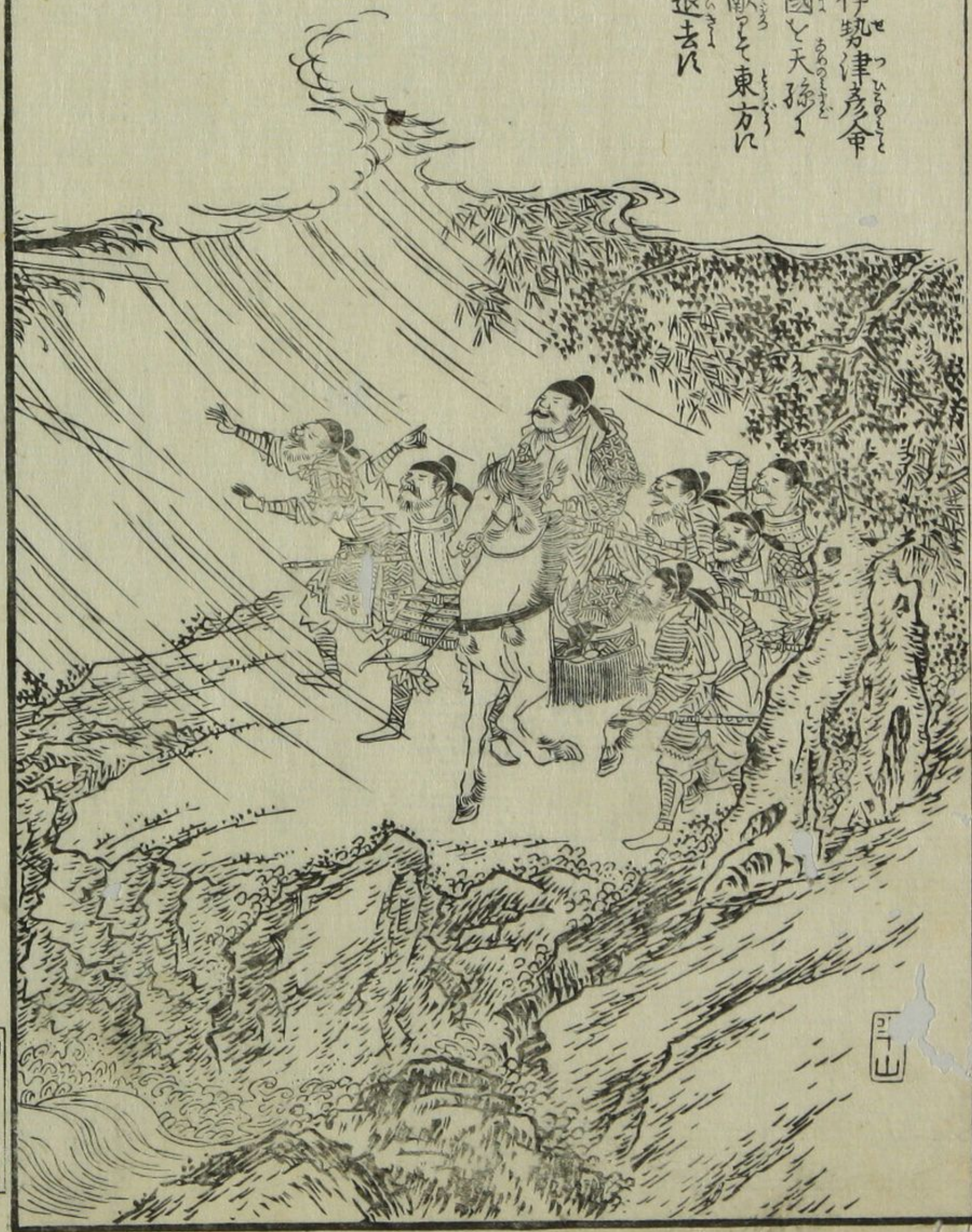
伊勢國大管十五郡一々地勢東南海濱一々西北山岳列々國中平均に  
一々余州小勝き土厚く貢一々一時百派得る大々上國あり

柳當國神武天皇東征の時天日別命勅と奉りて東入事數百里其所小  
神あり名々伊勢津彦と云一伊勢津彦ハ倭姬命世紀に出雲神の子建子命天日別  
命彼神對ひて曰汝ハ國と天孫ハ敵るや吾曰我此國小任久々大木  
惜む命兵と幾々其神と討んと欲し時畏々我國と悉く天孫ハ敵と  
啓れん天日別命云々汝の去ん時何と以て去るせん又啓て曰今夜八風と  
吹海海水吹波浪一乗と東へ行て是我される去るあつて吾夫と命  
兵と整て是と窺うとて中夜乃至頃大風四方散り波瀾とたつ光耀日乃  
一々海陸とも朗あり終浪一乗して東へ行るは當國の風土紀見ると此神  
住一國ある也伊勢と号はとも奥義抄ハ八川多國を五瀨ありといひ又一説は  
五十鈴の約あり轉て五十鈴とも或五瀨命より負一名ありとも伊勢風早と  
つ風一々波の形如く如く也とも一説ハ伊息と勢ハせとせむる也と云る勢

一々凡々物の勢ひは言ひ彼神大風と息吹放つ勢ひ有る一々伊勢津彦と負し  
一々も同也一々神風の伊勢あつて思ふと一々風より出る名あり  
抑伊勢西宮系詣の道條關西及び京師より先二条大橋より大津の駅と出東海道  
關の駅東の入口より直ハ東海道を方々鳥居神燈標石ありて是よりなる當所  
より山田外宮まで行程凡十四里京師より凡二十四里許  
關東より一々諸人ハ東海道四市駅より五十町を經て追分より直ハ京師に  
東海道は石の鳥居ありて系宮道是より神戸白子上野次經津小川河  
東武日本橋より伊勢山田まで行程凡百八里二十余町 追分より津八里半  
浪華より大和と越々田丸に出るあり又長谷より阿保山と越るあり或ハ伊賀乃  
上野と越るあり是と伊賀越ると一先田丸越ると一浪華より南都に出一輪長  
谷と經て秋原赤壇より田口とすびて勢州田丸不出く山田に至る 南都より行程  
凡二十七里余  
阿保越の道條ハ南都より長谷秋原と經て名張の所で阿保山と云る一々軒  
茶屋に出る 是より京より街道同 又伊賀越の道中ハ南都轉て進より奈良  
南都より行程凡二十八里余



伊勢津彦命  
國と天孫  
敵と東方に  
退去に



坂に至るは右に入る岐道なりて道志をのぞき立ると直に京街道を右に賀の上野  
 街道より是より加茂の置置と経て上野に出長野峠を越て月本の駅にお出  
 此所は京師より糸宮道より此より次て六軒茶屋に至れば阿保越の旅人に出會  
 追分と是より向ふ京街道同此より次て六軒茶屋に至れば阿保越の旅人に出會  
 故に六軒茶屋に至りては京街道伊賀越阿保越の二道會合するを以て清人の  
 往返殊更に賑し南都より伊賀越て山田まで是より山田までの名所四跡あり  
 行程凡二十六里許

山田

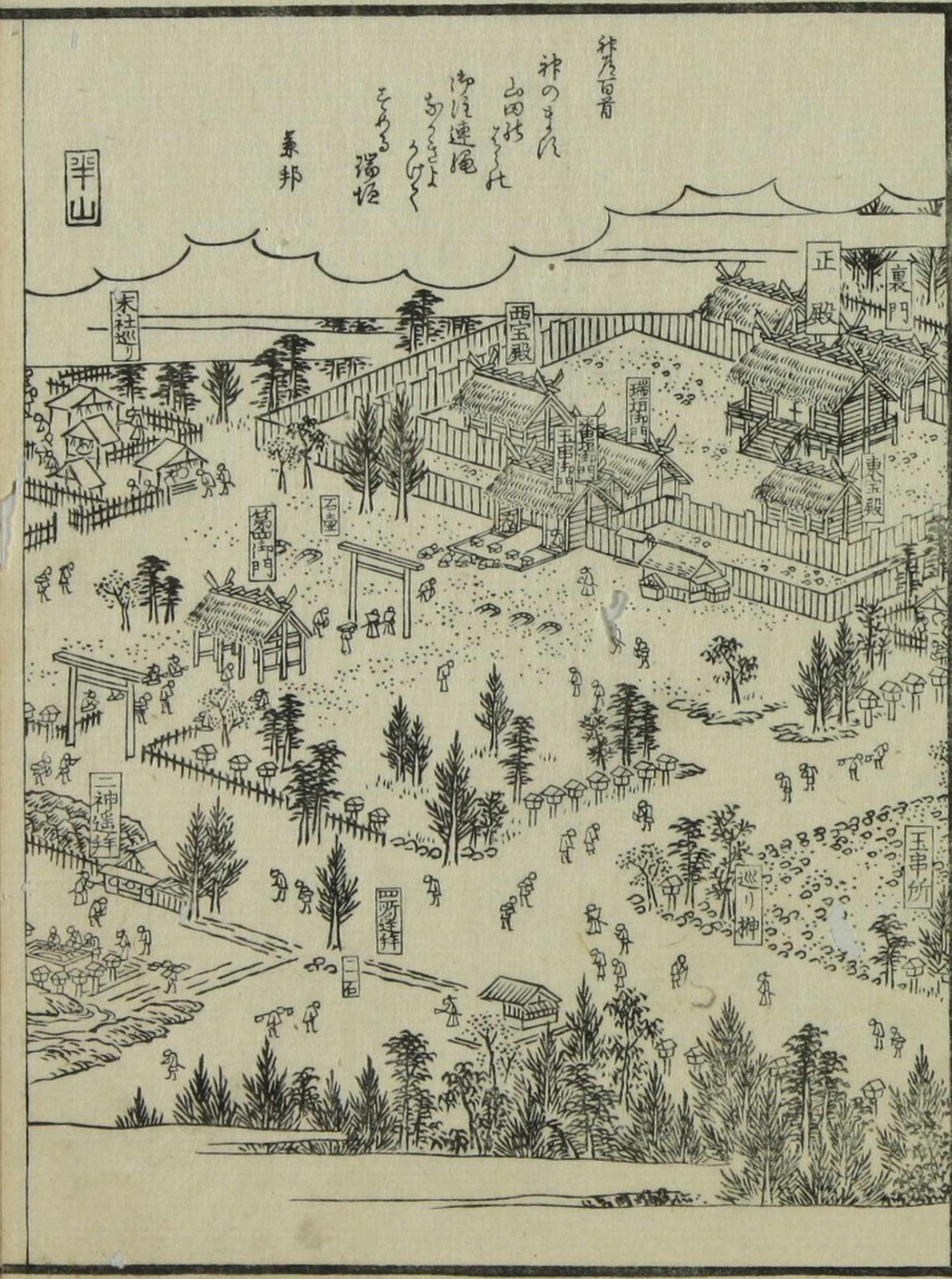
勢州度會郡より外宮神前の町と云山田十二郷の俗稱して外宮儀式帳に所記山田  
 原に延橋沼木葉曲木の三郷あり和名抄に陽阿度會郡の内の郷名として山田  
 と別く大同慶長志宮後館町の小名あり大同国生神社大同慶長の左の本林あり  
 草薙社大同の社の西あり清野井庭社大同の社の東人家のうづらあり人留山蔵寺  
 上の郷久留野あり○この好中島河裏宿内あり○好長本河頼澄木の墓あり此武吉  
 永正五年四月十日當所にお北宮中納言林親と戦ひ討死する跡あり○馬橋あり  
 公卿勅使とあり糸向の時外宮の神前あり馬あり○厭離山蔵寺越後寺  
 町あり○正法寺二俣あり○二宝寺世義寺の西十五丁あり○離宮院向宮  
 後あり神社四坐して春日明神と後高河神社月讀の宮地の内東の方あり外宮  
 振社十六社の内あり祭る所月讀の社といふ館町上中下あり月讀宮より外宮へ糸  
 此館町へ戻ると志宮後田中前野岡一属此館と事昔正權社其内人の館あり  
 今ハ倉館は向をともて神夏の時神官此所へ齋宿する右の横道と経て外宮北の門に至る  
 凡糸宮の道は北門と一の鳥居との二道あり一の鳥居より糸結と云



糸宮の道は北門と一の鳥居との二道あり一の鳥居より糸結と云  
 此館町へ戻ると志宮後田中前野岡一属此館と事昔正權社其内人の館あり  
 今ハ倉館は向をともて神夏の時神官此所へ齋宿する右の横道と経て外宮北の門に至る  
 町あり○正法寺二俣あり○二宝寺世義寺の西十五丁あり○離宮院向宮  
 後あり神社四坐して春日明神と後高河神社月讀の宮地の内東の方あり外宮  
 振社十六社の内あり祭る所月讀の社といふ館町上中下あり月讀宮より外宮へ糸  
 此館町へ戻ると志宮後田中前野岡一属此館と事昔正權社其内人の館あり  
 今ハ倉館は向をともて神夏の時神官此所へ齋宿する右の横道と経て外宮北の門に至る  
 凡糸宮の道は北門と一の鳥居との二道あり一の鳥居より糸結と云

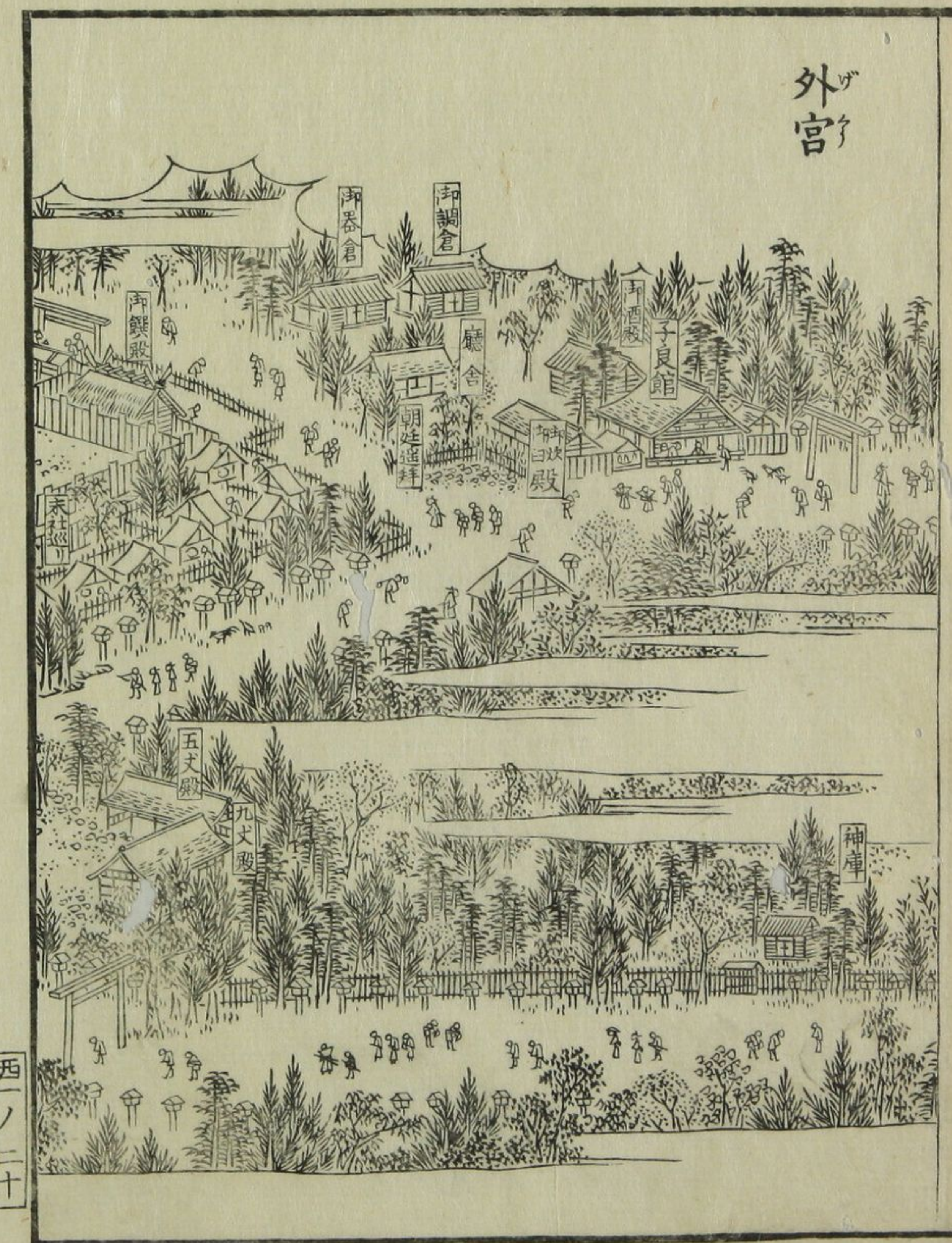






平山

林乃百首  
 神のまへ  
 山田村  
 伊豆速尾  
 うらまへ  
 福垣  
 兼邦



外宮

西ノ二十



与謝郡ハ今丹波の國に屬せり其昔倭姫命天照皇太神と載記奉り与謝の宮に鎮りしに  
此天降りし御同殿に坐せし御神今丹後國河守の内外宮といふ是なり其御  
出契りし御神の御神位に於て朝夕の御饗も 御殿造ハ南面して萱萱堀  
御一所ありしが文易の御饗もこれなりとの事あり

と柱ハ太古穴住居あとの後初て家作ると覺竹木と其尾繩がらみとせ 形あり

**東寶殿** 瑞垣の内正殿の前より御幣 西寶殿 同く西より御神馬の御度

**幣帛殿** 外幣殿ともいふ 裏御門 正殿の北より御門より北の御門にも記せし物  
正殿の乾の支有 御饗殿 正殿の長方内の玉垣の外より是ハ二所太神宮朝夕乃  
御門神ト云一名天岩戸別神 御饗殿 御饗に備ふる御殿あり

**四十末社** 本宮のなきにふかふて風の宮の右に終る俗と外宮ハ四十末社内宮ハ八十末社といふも  
此事旧記にあり事あり外宮儀式帳に宮巡りの神事にて二百余前に載りし然れども  
久しと世あれば本宮の迂宮より百歩の距離あり一里の村山乱後其名其所以といふ  
りり旧記も兵火に亡し神事も飢渴に怠り二百余前の内遺まる名と拾ひて後世の人より四十末  
社の名目せしめし諸末社他所より宮地よりハすは今の宮巡りの御所の遠方一あり  
て其分して此所を遷拜野に集めて崇也るも夫々末社神名有るも事ハ伊勢の事

**高宮** 大宮の南の山上より祭神一坐伊吹戸主神 下部坂 高の宮の坂といふ  
豊受太神の荒鏡の外宮ハ一の別宮

**袖引石** 下部坂の半途東の傍より後、金石を掃くも拜殿あり  
人のよまざる石 金石 享保の頃より者其頃宮中の路上修補せし時古の拜  
殿の後より一の奇石を得て長サ二尺なり幅八九寸重サ重サ倍せり石の形を打て金の言あり  
これより負命長官神庫蔵むの續日本紀あり雜事紀ハ聖武帝天平北一年陸奥より  
始黄金を獻じ即ち伊勢太神宮告言せ 内宮遷拜野 高宮御炊殿の東石積り此野にて  
奉納りしと言傳へ此石あると云

土の宮 高宮の坂を下りて左の方より祭神二座大土御祖神 宇賀御魂神 大田命あり  
外宮第二の別宮ハ崇徳院大治二年度會川の堤守護のあり宮に宣下りて未より  
山田の原地護の神あり 土宮御炊殿 土宮良の方より 地護宮 土の宮の北あり  
月讀宮遙拜所 土宮鳥居と出で左より 月讀宮御炊殿 同所東より  
山神社 月讀宮遙拜野の南より祭神大山祇神 下御井社 山神の社の傍より  
風宮 土の宮の東の方より祭神二座級長津彦命 級長戸辺命 御炊殿 風の宮の  
外宮第四の別宮あり七月四日風日祈の神事あり  
此は宮中終

**土宮** 高宮の坂を下りて左の方より祭神二座大土御祖神 宇賀御魂神 大田命あり  
外宮第二の別宮ハ崇徳院大治二年度會川の堤守護のあり宮に宣下りて未より  
山田の原地護の神あり 土宮御炊殿 土宮良の方より 地護宮 土の宮の北あり  
月讀宮遙拜所 土宮鳥居と出で左より 月讀宮御炊殿 同所東より  
山神社 月讀宮遙拜野の南より祭神大山祇神 下御井社 山神の社の傍より  
風宮 土の宮の東の方より祭神二座級長津彦命 級長戸辺命 御炊殿 風の宮の  
外宮第四の別宮あり七月四日風日祈の神事あり  
此は宮中終

**千枝杉** 風の宮の東 高倉山 岩戸の山上より事八丁外宮の南より又高佐山より日就山  
高倉山 古記ハ高佐山十二ヶ所の岩屋あり今も今も三ヶ所有る事あり  
岩戸 高倉山のより傍茶屋あり甚だ美景の地あり此山に四  
下れ岐道りて未より客神高神社とあり岡本町にあり

**高神社** 建日丹方命 客神社 建御方方命と祭る山岩戸より岡本と下る道より二社東西  
是より凡二百二十歩以前にあり

**宮寄文庫** 豊宮寄りの高神山の林麓に慶安元年に宮建りて是ハ外宮祠宮の字に  
後一岡本の里坊山に負て造る三幾起人数七十家あり是ハ文庫衆といふ今も奉納りし書  
籍目録あり下掲に敷部千部一及び宮城の林道春秋傳一部寄せし書  
始ハ他國素性の人ら下り其器をえし備師を文庫人数ありしが奉納りし書

豊宮寄りの高神山の林麓に慶安元年に宮建りて是ハ外宮祠宮の字に  
後一岡本の里坊山に負て造る三幾起人数七十家あり是ハ文庫衆といふ今も奉納りし書  
籍目録あり下掲に敷部千部一及び宮城の林道春秋傳一部寄せし書  
始ハ他國素性の人ら下り其器をえし備師を文庫人数ありしが奉納りし書

傳師も聴衆もあつり林道春秋傳一部を収めるの時文庫一題十書記の文又同氏  
春舟紀州水田善齋歡亭の記り又外の額に宅善齋道慶の筆に内の額に文虎  
林氏の筆に共々豊言奇文庫の五字之床の間に大神宮の尊号後陽成院の御宸翰と  
うる先年室新助直清貝原篤信伊藤長嶺等重遠とくも字才り人小書籍一覽見の爲  
りて表てん因て又屋上櫻 此木は寛文御遷宮の時外宮の古殿の屋上生サ一寸苗を  
瀧渡もむりしを又屋上櫻 又出口延佳の屋上生サ一寸も言つて然る百幸と

度會大國玉比賣神社

高神山の東尾寄にあり祭神 大國玉命 佐良比賣命 二座  
外宮櫻社十六坐の此とて大黒谷とて大國の櫻あり

伊加利社

大國玉比賣社の南にあり祭神 伊加利比賣命 井谷池  
儀式帳に式外名所の内あり

梶ヶ森

井足の東にあり河内の森林の 錦河内 岩崎に宮寄の流に源が鼓が出で高倉山より  
轉号ありト云

御田

岩倉山下にあり是は宮寄の御田ト云入拔穂の御田ト云  
精進田ト云又御常供田ト云豊受大神の御田ト云

山末社

木梨谷にありは樹大山津姫命 麻留山 梶ヶ森の南にあり  
此社の名は俗に根ありト云

宮崎の氏社

九山西南にあり氏神村にあり祭神 度會門祖神 鼓ヶ岳  
天村雲命社前小祠に座り度會氏の祖と祭らる

鼓ヶ岳山蓮臺寺

蓮臺寺村にあり一各院の御宇永親朝臣の建立とて無本寺と禪天台真言三宗の内  
の僧住持と昔大地のしが今廢して形なきの小堂に觀音と安置

世義寺

世義寺の北にあり籬橋の橋の東に八幡山弁才山伏寺真言宗塔頭十九坊あり岡基洋あり  
五六年に龍浪の橋の東に八幡山弁才山伏寺尾山にあり尾上經が峯より連る山中に傘松ト云

龍浪山

世義寺の北にあり籬橋の橋の東に八幡山弁才山伏寺尾山にあり尾上經が峯より連る山中に傘松ト云

世金剛院

本尊藥師如来例年九月廿五日より廿日迄は法會修行あり

岡本里

此町東に小田橋西に高倉山あり寛永十七年中御奉行所より岩倉坂と切りし地より外宮の鳥  
居より内宮の往來と直道と成り人其より外宮の鳥居より北とて下馬の橋より

小田橋

岡本と妙見町の境にあり此川に神寶川より遠く流きて川崎船に經て高城安清が諸  
勢洲の國俗女子の月経ありト云

河辺里

小田橋より二町北にあり此川に神寶川より遠く流きて川崎船に經て高城安清が諸  
勢洲の國俗女子の月経ありト云

妙見町

小田橋の東の町あり相の山ありト云

岡崎宮

妙見町の山の方より今妙見堂より北辰妙見菩薩と安長長三尺足らぬ禿髮にて童女の  
髪に昔岡崎の宮より社地にて此地に度會氏の胞衣を代り納り所ありト云

尾部社

妙見堂の東にあり祭神 尾山 山田の町の末妙見町と尾上坂の間の北の山にあり倭姫命  
倭姫命ありト云

尾上山

古名隱岡大かたれ山とて万葉集にひびきの撰集に倭姫  
多し寛文年中尾上社とて再建あり後廢とて今又社と云

高日山常明寺

法樂院ト号り同の山北にあり當地第一の古寺とて大寺と本尊藥師如来天台宗額後陽成  
院御宸翰本堂に山門ありト云

金鼓山光明寺

常明寺の北にあり阿阿井と庫裏の東竹林の内あり頼政碑と眼地蔵と石題目とあり數の辺に有  
窟ありト云

結城入道道忠墓

天台宗あり寛文年中月波和尚住職の時より禪宗とて延元四年又奥及下向  
是は北畠中納言顯家卿に屬し奥州より延元四年又奥及下向  
せんせよ安濃野津よもて病より山田吹上町にて卒

山田妙見町の東の坂と間の  
 山より此町にお杉ち玉もど  
 つる女粧ひて二味線と引て  
 衆詣人々錢ともし小推子と  
 様々出扮せて踊らせ母  
 後、拍子とり比佐尼の徒  
 往來を立て報謝  
 願ふ此に出るりのハ  
 山田領の拜田村の  
 者いもうろ入中の  
 地蔵の木の坂も  
 間の山とつして此野も  
 山田の間の山とつして  
 此に出る、山田領の  
 谷村の人の西野  
 も當地の名物  
 して他、双いさら  
 一奇、山田の  
 間の山田を尾部  
 坂と云字治の間に  
 山牛谷とつて



北畠頭家御碑 ○後白河院碑 ○古鐘 後深草院御宇常盤井実氏入道寄附  
毎日酉の刻子の刺両度是と撞くと  
参考太平記のせり光り光明寺  
残篇とつら此書

結城上野入道自筆の軍中日記勅制軍法と云書り

東照山清雲院 妙見町と間の山同 尾部坂右の頂にあり世義寺二宝院兩院の如  
南の尾 曼陀羅石の林字とて鏡久其傍に小石をいさかきて皆梵字と鑿はるるも昔は  
年一難一説に金剛胎藏の両曼陀羅ありたり何れも近世の物と見へ

阿の山 妙見町東の坂より四名尾部坂又尾上坂とも書兩宮の間の山あり阿の山とて又是より  
旅人々錢をいさかき種々出さるる母、後、ありて想と指しとて、比丘尼の御表に  
旅人々錢をいさかき種々出さるる母、後、ありて想と指しとて、比丘尼の御表に

古市場 尾部坂の東の町是より宇治領之昔の市場として鯉島昌の地へ茶屋芝居ありて  
○大立輪。右同所より此石方四人地より頂に二大余傳説詳ありて宇治山田の戦ひに死せ

貝吹山 中地蔵 古市の次の町に此間と長峯と云  
内宮より外宮まで五十町の其中間

葛籠石 中地蔵町東の方二町斗より此間とも長峯と云  
内宮より外宮まで五十町の其中間

王孫池 古市より朝熊の道より昔此地辺に大樹の楠ありて延宝年中は餓寒大楠の池  
あつたり又下中村皇女の森に池ありて王孫の池といふも聞ゆ

月讀伊弉諾兩宮田地 布施戸坂より下り本誓言寺の東に森に二所あり 仁壽二年八月廿二日  
洪水より二宮とも流る故に今中村の地より二所あり

菩提山 下中村より道言宮と本尊丈六阿弥陀佛行基作兩殿不勳明王毘沙門天王  
聖武帝勅願よりして天子十六年の草創開基行基菩薩と聞ゆ

皇女森 五十鈴川の下中村より又楠部村西の方より森と命を雄略天皇 弟の皇女橘幡皇  
女斎宮にさせしむる廬城部武彦より入し密通りて孕みりて阿閉の臣国見と

伊弉諾伊弉册尊宮社 月讀の宮地の西より内宮の別宮の内宇治の所遙拜所と  
仁壽二年以後此所より

奥玉森 月讀の宮の南より 楠部村の四名と古市より十三丁  
是より朝熊山に登る五十町

大土御祖社 楠部村より祭神大國玉余水佐良姫命二座と  
是より所見社と云清水森と云海村より東あり 大土御祖の社の  
地内良有祭神

牛谷 宇治比賣命 田村比賣命二坐之右兩社とも内宮攝社二十四座の内、森の聖に御常供田有每幸  
五月、大御田の神事御田植り、國津御祖、八國の祖、内宮の地神ありて宇治姫と云田村田の神

浦田 中地蔵の末の坂より牛谷坂より下り浦田町へ入る前、門あり此門と惣門と云  
此の坂より入る宇治の所

伊勢上人 寺号と稱せし官家の息女代、住職より一庫裏客殿廣大なる寺の南并財赤の社有  
中の切の方より新橋と云

同田 橋あり町と川原町と云 那自賣社 同田の左の方より同田山神祭神二座  
大土御祖命、玉御裳須賀比賣命並に御

西行谷神照寺 宇治の町東の山際より建久の頃、西行法師より高居りて所あり自作造り  
大納言光廣卿の御寄附ありて今此地在尼住持の松と云名木ありて今も今も括ては

大納言光廣卿の御寄附ありて今此地在尼住持の松と云名木ありて今も今も括ては

西行 西行

餓鬼谷真淨院 神照寺南隣あり 眞言宗

法樂舎 岡田山神の右の方有 本尊二十佛と真言宗

不動堂 岡野有明正院 本尊不動明王

津長社 如村の西山の傍有祭神一座 大木社 津長社の南あり祭神一座大山祇御祖命

鼓ヶ岳 大橋の西ありて宮川五十鈴川と云ふれ 神鼓山長明寺 鼓ヶ岳林寄りの同有本尊正観音鴨長明と云ふ此寺住人乾金と云ふ此寺此地へつる

林寄文庫 鼓ヶ岳の東の尾末大橋西山あり 自是宮四年一造立りて公しく乾金と云ふ此寺此地へつる

橋姫社 宇治の結ばり橋と守る神也祭神一坐宇治地妻命あり

宇治橋 宇治郷ありて斯号りり川五十鈴川あり長サ六十間廣サ四間半 正中の高サ二丈二尺

五十鈴川 一流宇治山より又志州より流る末中村捕部兼海村と云ふ二見の海へ入る

鏡石宇治 一流宇治山より又志州より流る末中村捕部兼海村と云ふ二見の海へ入る

高麗石燈臺松 此川辺ありて其中心の奇石也

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

此山登りて全側能淵西行りて懸崖あり又宇治橋より川端五六丁上りて右の山

自是宮中 神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

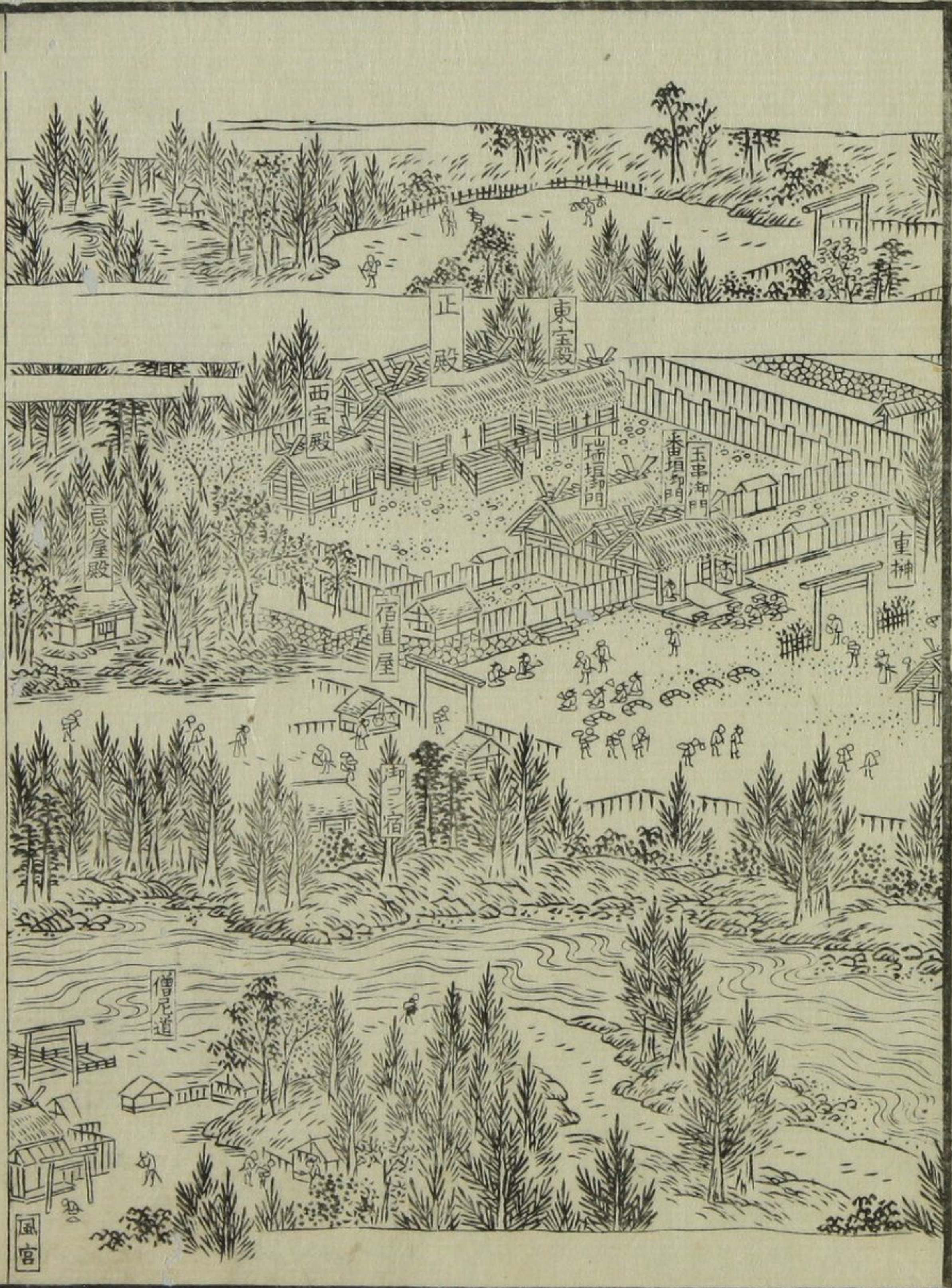
神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

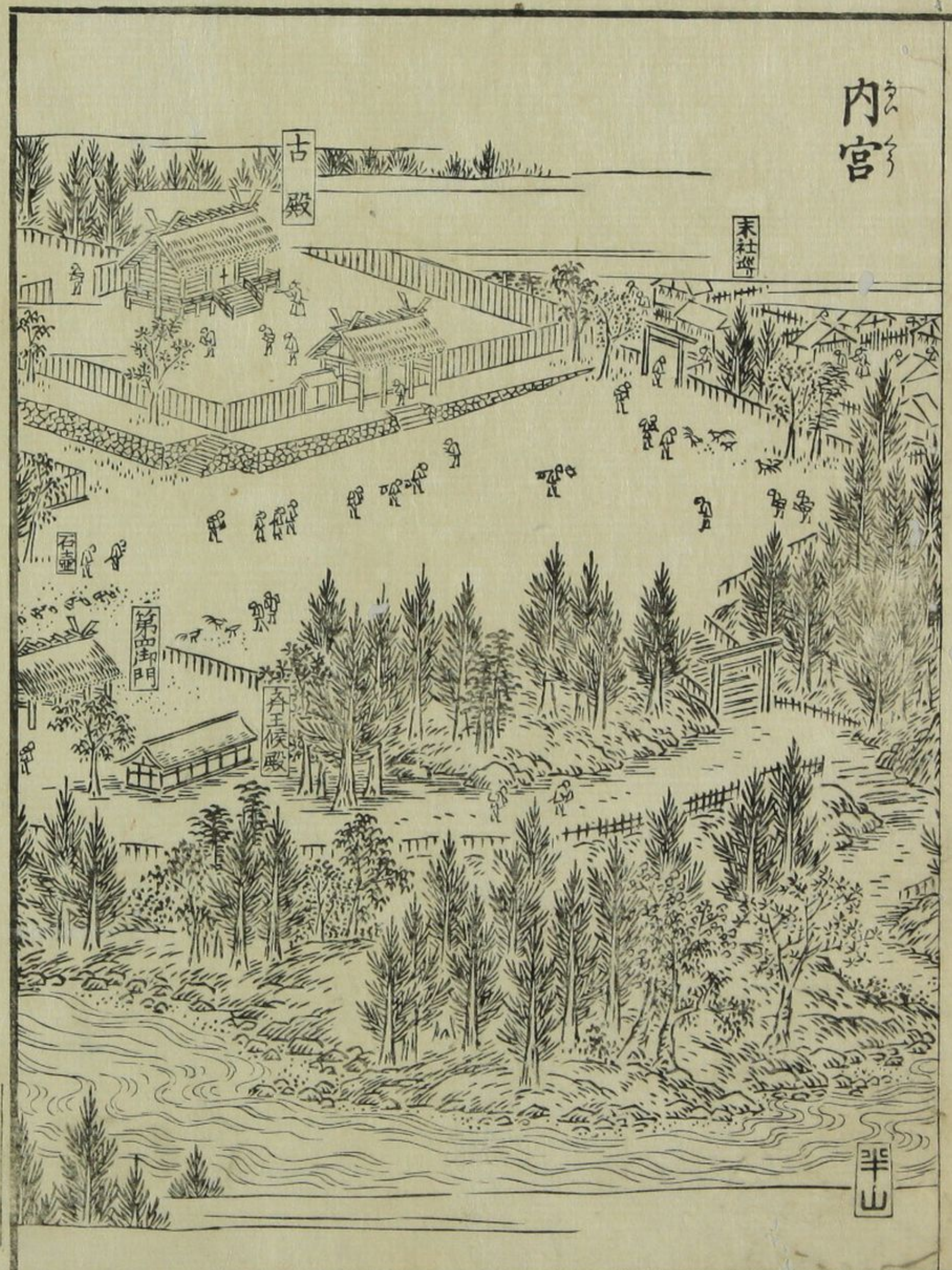
神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり

神庫 宿館の南あり



内宮



内宮

半山

西ノ二十七



内宮正殿 天照皇大神 一座

巽の宮又五十鈴宮儀の宮朝日宮とも申奉る

相殿 東 手力雄命 西 萬幡豊秋津姫命

日本紀に携幡千々姫

手力雄命ハ天の岩戸を引ひて強力の神也

携幡千々姫ハ神代卷下ニ天照大神の御子天忍穗耳尊の御妻トテ高皇産靈尊の女也

御鎮座の御事ハ日本紀一書云日の神岩戸を閉ひて出ず時鏡を以て其座

投げられ戸を觸て小瑕付り今尚存此即伊勢ノ崇秘ノ大神也尚神

武天皇以來代々此御鏡同殿にすませり人皇十代崇神天皇の御宇神威

と恐きゆひ天の香山の荒金を以て鏡鈕を鑄りて温明殿に置り申内侍所

寶銀と名づけ内裏にとり神代々の鏡と鈕ハ崇神天皇二年己丑秋九月御

女豊鋤入姫と附奉り大和國笠縫の邑に付て磯城の神籬と立てり奉る其

後大神の教よりて豊鋤入姫大神と戴り奉り國々此宮所を求めり其

老のいよりて人皇十一代垂仁天皇の御女大倭姫命をかりて美和乃御

緒の宮より諸國順覧り終り同御宇二十六年丁巳十月甲子宇治郷五千

鈴川の辺に授り奉り相殿ハ天兒屋根命太玉命より其後外宮御鎮

座の時此二神と外宮の西相殿に定めり

神風や吹く此を乃と云ふ門の神のくある世よりと云ふ

鎌倉 右大臣

神路山 宮域のめく 一名大山 天照山 宇治山 鷲日山

百枝松 内宮の御神木と神路山より 東寶殿 西宝殿 正殿の宿衛殿 本宮の

八十末社 本社の御前より右廻り是も外宮の條に言ふて遙拜所ハ本宮の在所神名本

西鳥居 是と荒垣西御門ト云 天津神社 國津神社 是天神地祇を拜する所

本宮古殿 廿五年に一度遷宮 興玉拜所石壇 本宮西北隅有 御指御倉 鳥玉の

一元社 御指倉の 裏御門 北鳥居 荒垣の御門 北玉垣御門 北瑞垣御門

瑞垣御門より荒祭宮へぐる間東の山中ニツの井有り常々是と 荒祭宮 本宮の北坂の上有茅二

外宮遙拜所 正面より 月讀宮 伊弉諾宮 瀧原宮本の遙拜所 同西北の

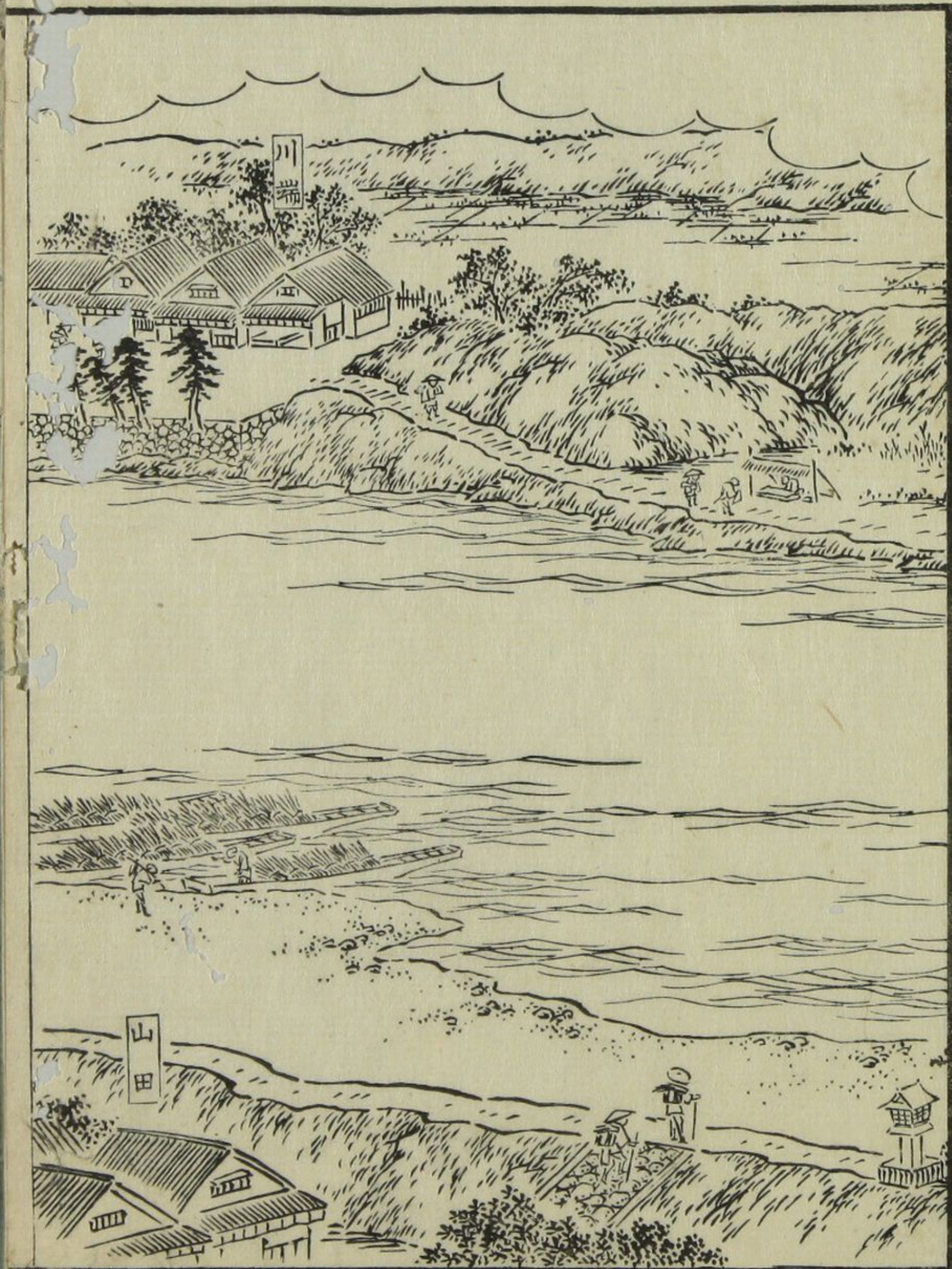
伊雜宮遙拜所 同東南 高宮土宮新月讀風宮高神宮神北御門社外宮

の攝社末社小朝熊社前社本の遙拜はづれも此所の左右より

却池 周四百八十間荒祭 河島神社拜所 瀧原附屬の社此社の前 櫻宮 大道の左の方石垣

遙拜所の後有





柳の渡 言川のよ

此方の岸は山田の町  
 向ふの岸は川をこれ  
 宿より下の渡り  
 日掛りて舟あり  
 川をこのちのち  
 赤い橋がや  
 遠くはては  
 十のちのち  
 甲の川の  
 御の

半山

狭田國生神社

延喜式神名帳出度會郡五十八座の内之 速川比古神社 田丸の東

湯田神社

湯田村のり所祭 雷電神並素盞鳴命を祭る 延喜式神名帳出太神宮撰社二十四座の内之 御造り

田丸城下

紀州のり御番城の城下より高家後駕屋迄のり行程凡五十町 且高見越吉野道より野標石と云

田上大水神社

田辺村のり大神御倉川神を祭るト云 延喜式神名帳出度會宮のり撰十六座の内之

棒原神社

田辺村のり所祭天須麻呂女命 延喜式神名帳出太神宮撰二十四座の内之

坂手國生神社

田辺村のり所祭高水上命 延喜式神名帳出太神宮撰二十四座の内之

神照山廣泰寺

官古村のり禪宗曹洞派僧祿野田丸の城下より十八丁南より街道一道ありの 標石のり本尊釈迦牟尼佛縁起のり畧之

富向山田宮寺

田宮寺村あり古義真言宗伊勢内宮御氏寺御内院より鹿沢保寿院小野 三玉院両派兼帶無本寺御朱印地

蚊野神社

蚊野村のり所祭大神御影川神 延喜式神名帳出太神宮所撰二十四座の内之 且四月九月の神衣祭一笠繼の内人等簑笠一具と

供進より延喜式一見より修造の社十二處の其一より

